

2020 (R2) 神無月 10/27 329-

右馬允たま王

高く澄み渡る青空と粧いかいよいよ美しさを増した大西山。庭もみじたらも仄かに色付た色、ほいとはこういうことだ。と一人納得しています。重陽の日には何とない菊が寒菊を除いては全て咲いて秋の深刺とじわじわ感じさせてくれます。菊枕を作って大好きの方に贈りたい。そんな年頃は当に過ぎたが一度作って寝てみたいです。(この重陽の日には摘んだ菊の花びらを乾かして詰め菊枕としようです。から無理な話ですね)

山のきのこもそろそろ終盤。毎日のように出かけて行く允や久美も数日前は目を輝かせた。意気揚揚と戻り私たちに御天させてくれましたが動線が多いために気毒な結果となっています。その若者は元気で高森のお店が今日は休みで昨夜家に帰って来た弟の元と又人で他の城へ自分たちの狩り場前にと「しろ」といいます。とこもそうみたいで有り難いことですが人の行き来が戻つたようです。落葉が今では(旅行する人や仕事に出勤する人)

のように来て下さるようになっていて毎日毎日忙しかつているのですが若者のパワーはすごいですね。前は私達だつてあんまり目い、ほい、癒けていたんだけれど今は大違いで切ないものです。三日に一度は休ませてもらいたいと後か続かない現状。そのころ立派な先輩が大鹿村にはいるのです。その石は紙谷正の郷年95才、右の広の田んぼの稲刈り稲架りにかけ... 時々久美の手伝うこともありますがほとんど一人で今年もやりました。正介さんは鯉の旨煮弁当やうまか弁当を作って陰ながら応援しました。朝お陽様と一緒に活動開始のようです。今年は允を山に送っていく途中でその姿を何度となく見て感激していました。近頃では減っていた切ない稲架米。尊い尊いお米です。

